



Bridge School 2016 in 信州

活動実績報告書



平素より皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび多くの方々のご支援、ご協力を頂き、大学生と高校生が「学ぶ喜び」に触れる合宿企画『Bridge School』が長野県内で3回目の開催を迎えることができました。実行委員並びに参加者を代表し、厚く御礼申し上げます。

かつて進路選択に迷ったり、現在も葛藤を抱えたりする大学生と、高校卒業後の進路に真剣に悩む高校生が集った本プログラムは、年代を問わず参加者それぞれに日常では味わえない深い学びと絆をもたらしてくれました。本報告書で、その様子を垣間見ていただければ幸いです。

Bridge School 代表 関口真司

<開催概要>

企画名	Bridge School 2016 in 信州	主催	Bridge School(任意団体)
日程	2016年3月11日(金)～3月13日(日)	会場	国立信州高遠青少年自然の家
参加者	高校生23名、スタッフ24名、ゲスト1名、視察11名		

目次

- I. Bridge School について …2p
- II. 普段の活動／企画ができるまで …2p
- III. 『Bridge School 2016 in 信州』の流れ …2-3p
- IV. 参加した高校生の声 …4-5p
- V. 団体概要 …6p

I. Bridge School について

<団体理念>

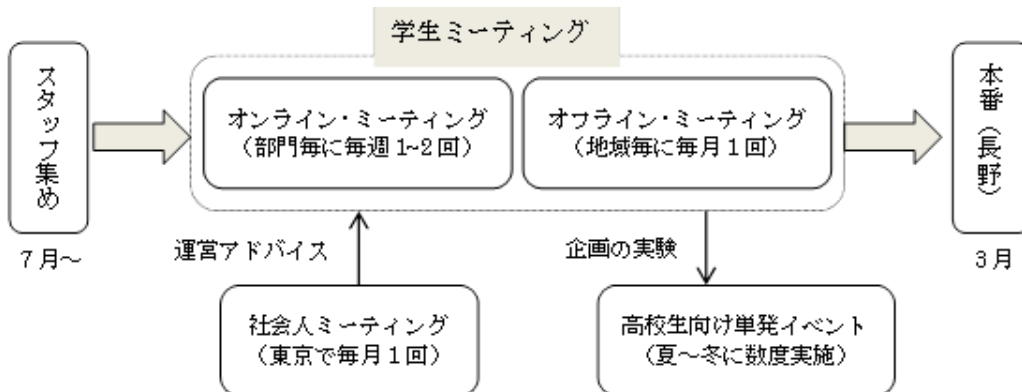
「学ぶ喜びを、地域の高校生に」。Bridge Schoolはこのスローガンを掲げ、大学生が学問に打ち込む姿を提示することを通じて、高校生に学ぶことの楽しさを伝えようとしています。日常にあふれる様々な「学び」を楽しむ姿勢こそ、当団体に所属する大学生たちの目指すものであり、また、そうした状態にある人を増やすことが当団体の社会的な使命です。

<団体立ち上げの経緯>

高校生にとって、大学での学びをイメージできないことは進路を考えるにあたっての不安や悩みの原因になりえます。そこで2012年に、地方出身の学生が中心となって、大学・大学生と交流する機会の乏しい地方で大学の学びの疑似体験を提供し、学ぶことの楽しさや将来への生かし方を考えてもらうことを目的に当団体が立ち上げられました。

II. 普段の活動／企画ができるまで

Bridge Schoolのコンテンツは、学生スタッフが一つひとつ手作りしています。心から提供したいと思えるものを創るために、何度もミーティングを重ね、試行錯誤しています。



III. 『Bridge School 2016 in 信州』の流れ

		1日目	2日目	3日目
大学での学び	大学・学部情報 学ぶ楽しさ	○学問体験セミナー 高校生は8つの学問分野から2つを選び、それぞれ毎日1コマずつ受講する。		
自分の興味関心	好きなものごと 「好き」の活かし方	○偏愛マップ 自分の興味・関心を 図で説明し合う。	○「好き」から創る私のまち グループメンバーの「好き」の 活かし方を考え、発表する。	
社会との接点	地域で生きるといこと 「働く」といこと		○山田崇様(塩尻市職員)講演	
関係形成	相談できる先輩の獲得 多様な高校生との出会い	○座談会 合宿中、夜に宿舎にて開催。テーマを設けず、 高校生と大学生が一個人として語り合う。		○閉会式 3日間で積み重なった想いを 披瀝し合う。

■ 学問体験セミナー



高校での勉強と大学で学ぶ学問との繋がり、学問が社会にどう役に立つのか、などなど、様々な学問に取り組む個性的な大学生が、自分なりの切り口で専門分野について高校生と語り合いました。

開講科目：

数学/物理学/農学/語学(英語)/商・経済学/文学/政治学/教育学

□高校生の声

「教科書の見方が変わった」「『勉強』と『学び』の違いについて沢山自分の意見を出せた。」

■ ワークショップ(偏愛マップ/「好き」から創る私のまち)



1日目と2日目の夜に、それぞれ「自分の興味関心に向き合い仲間表現してみる(1日目)」「その興味関心を身近に生かすロールプレイをする(2日目)」というワークを行いました。自分の得意なことや熱中できることについて、高校生から明るい表情で多くの発言が見られました。

□高校生の声

「好きなことを語るのはひたすら楽しかった」「好きなものを再確認できたり、人と好きなものを共有できたりしてよかった。」

■ 座談会



1日の終わりに、大学、学問の話といったものから、悩みや興味関心について等、高校生と大学生が幅広く語り合う場です。その日を通して新たに生まれた疑問や、以前から抱えていた不安について、大学生が寄り添って考えます。

□高校生の声

「大学についてすこしずつイメージを掴むことができた」「自分の今の悩みについて、親身になって聞いてくれるので、抱えていたもやもがすっきりした」

■ 社会人講演



講師に山田崇様(塩尻市役所職員)をお迎えし、「小さなことからやってみる」ことの大切さについて、実体験をもとに語っていただきました。ゲストについて事前学習する時間を取り、あらかじめ質問を考えた状態で講演に臨みました。

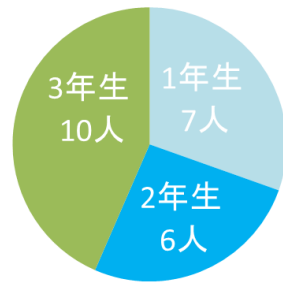
□高校生の声

「どんな仕事でも面白みを自分次第で見つけられるとわかったことは、将来の仕事選びに生きると思った」「事前に質問を考えることで、以前(山田様のお話を聞いたとき)とは全く違う心構えで聞くことができ、吸収できることが多かった」

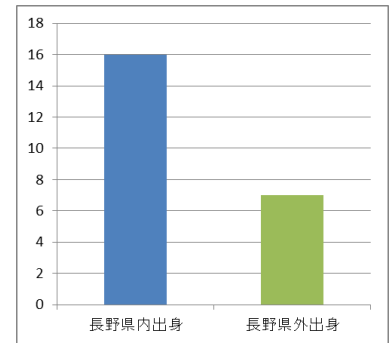
IV. 参加した高校生の声

○高校生参加者の概要

＜参考 1＞ 学年の構成



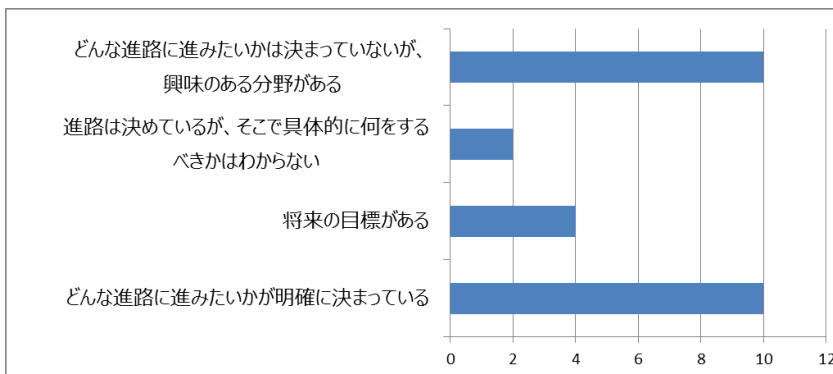
＜参考 2＞ 出身地域



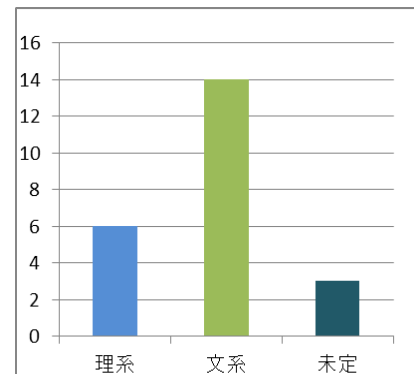
学年構成に大きな偏りはなかったが、すでに進学・就職・大学浪人など進路の決まっている生徒の参加が多く見られた。また、前回開催時の参加者から 4 名のピーターがいた。出身地域は県内／県外がおよそ 2 : 1 の比となった。

○事前アンケートより(複数回答可・参加者 23 人全員が回答)

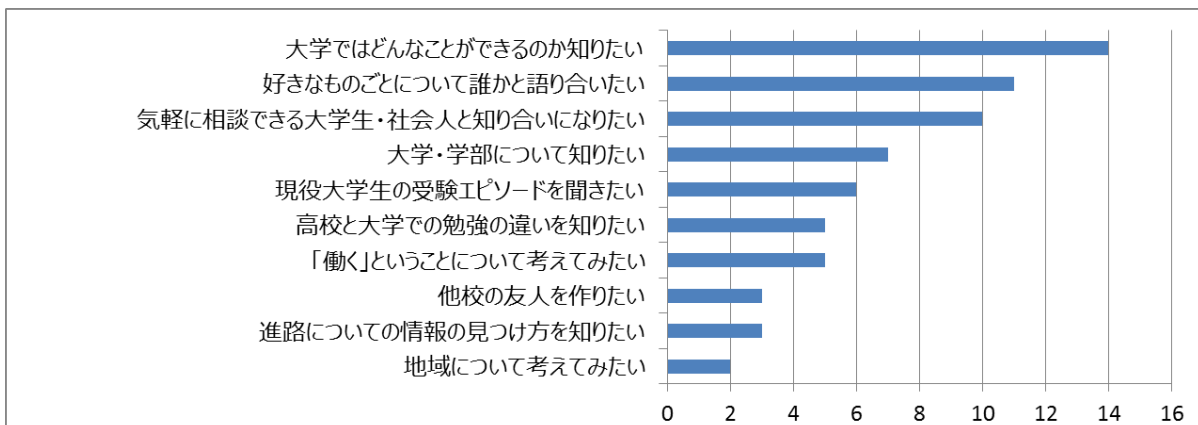
＜参考 3＞ 進路選択の状況



＜参考 4＞ 現在の文理選択



＜参考 5＞ Bridge School に期待するもの



希望進路については、明確になっている生徒、具体的な進路希望はないものの興味のある分野があると答えた生徒がそれぞれ約半数となった。Bridge School への期待としては、大学について知りたいというものが最も多く、次いで自分の興味関心について語り合いたいという回答が多かった。他には、相談できる知り合いがほしい、受験生のエピソードを聞きたいなど、大学生との関係形成に対するニーズも多く見られる。次回以降のプログラムを設計する際には、こうした高校生のニーズをより意識していくべきと考えられる。

○事後アンケートより(参加者 23 名中 22 名が回答)

<参考 6 各プログラムへの満足度平均および標準偏差(小数点第 3 位以下を四捨五入)> ※ 1 ~ 5 点で回答。

回答項目	満足度平均値	標準偏差 (回答のばらつきの大きさ)
【セミナー】(2つのセミナーについての回答を合算)	4.84	0.37
【ワークショップ】満足度	4.73	0.63
【座談会】満足度	4.73	0.70
【講演会】満足度	4.77	0.75
大学生に気軽に相談できたか	4.59	0.73
大学生スタッフの対応	4.64	0.58
総合満足度	4.77	0.43

◆高い満足度

全体として、きわめて高い満足度を得られたと言える。特にセミナーについては満足度が高く、回答のばらつきも最も小さいことから、どの高校生からも高い満足度を感じてもらえたと考えられる。総合満足度にも同様の傾向が見られる。

◆回答のばらつきが大きかった項目：座談会／講演会／大学生に気軽に相談できたか

深刻とは言えないものの、上記項目で回答にばらつきがある。高満足度の生徒も多い一方で、2 点や 3 点をつけるケースも見られた。次回以降は参加者全員が高い満足度を得られるよう、プログラムの設計に配慮が必要であるといえる。

◆高校生への心理的なケアに改善の余地あり

結果から課題が見られたのが、「大学生に気軽に相談できたか」への回答である。小グループごと専属大学生の設置など配慮したものの、非日常的な環境で高校生を預かる以上、緊張しがちな高校生へのケアはさらに徹底していきたい。

<参考 7 事後アンケート「Bridge School を通じての変化」／期間中に高校生が記入した日誌より抜粋>

事後アンケートより	日誌より
大学への不安が減った。	人と関わるのが嫌で最初は不安だったが、来て話してみると本当は話すことが大好きな自分に気が付いた。
何かを一生懸命学んでいる人のキラキラした目で語ってくれる話がとても素敵で、私もそんな人になりたいと思った。	何かを捨てても愛を捧げられる、誇れるものが欲しいという悩みについて、大学生も共通の悩みを持ってたと知って、心が少しすっきりした。
日常ではがまんしていた言いたいことが、この合宿ではたくさん言えた。	参加前はずっと学部で迷っていたが、自分の興味があること・学びたいことが定まってきたので嬉しかった。
理解できないから苦手だと思っていた学問が面白いと思えた。	大学生になったら自分も学生スタッフのように「伝える」ことができるようになりたい。

V. 団体概要

団体名：Bridge School（任意団体）

代表：関口真司

団体構成員：27名

発足：2012年8月

公式サイト：<http://bridgeschool.jp/>

スタッフ大学生名簿(五十音順)

氏名	所属	学年
井上竜之介	慶應義塾大学法学部	1
越智祐介	香川大学経済学部	4
楮原航平	慶應義塾大学大学院法学研究科	M2
苅田有花	聖心女子大学文学部	1
北野航輝	信州大学人文学部	2
北山智之	金沢大学地域創造学類	4
孝森博樹	信州大学農学部	4
小寺慶	大阪大学法学部	4
佐伯憲太郎	慶應義塾大学大学院理工学研究科	M2
酒井朝羽	信州大学教育学部	1
塩見亮介	慶應義塾大学理工学部	1
須藤史哉	慶應義塾大学大学院理工学研究科	M2
関口真司	慶應義塾大学大学院法学研究科	M1
田嶋直輝	大阪大学経済学部	3
田中諒	早稲田大学大学院文学研究科	M1
遠山裕一郎	東京大学大学院教育学研究科	M2
野村康之	京都大学大学院農学研究科	M2
橋枝紗知子	東京学芸大学大学院教育学研究科	M1
長谷川響馬	慶應義塾大学理工学部	3
福田純平	神戸大学経営学部	4
松澤和徳	明治大学法学部	4
山口弘華	早稲田大学文化構想学部	1
山下かさね	中央大学法学部	3
和田耕介	中央大学商学部	1

視察大学生名簿(五十音順)

※正規構成員ではないものの、Bridge School の理念に共感し、当日参加した大学生を指します。活動を視察するほか、運営の補助も行いました。

氏名	所属	学年
千代西尾輔	信州大学農学部	1
名倉早都季	東京大学教育学部	3
宮部良将	慶應義塾大学理工学部	2

運営アドバイザー ※当日並びに事前準備において、大学生による企画運営へのアドバイス及びサポートをいただきました。

武口翔吾氏	一般社団法人ウィルドア 共同代表理事
	キャリア教育コーディネーター(キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会認定資格)